

# ペスタロッチー記念日

倉 橋 惣 三

本月十七日はペスタロッチーの百年忌に當る。世界を擧げて、此の人類の偉人を記念しようとする。我國に於ても、全國の教育者は、それらの方法によつて、此の日の意義を深からしめようとしてゐる。既に幾多の教育雜誌は、此のために特別號を編輯して居り、また、全集の發行も計畫せられて居る。當日に於ては、各地に記念祭も行はれることであらう、多くの有益なる講演會も催されることであらう。皆以て、ペスタロッチーに對する、われ等の追憶と仰慕とを新たならしむる好機會たらざるはない。

しかも、われ／＼教育者として、此の偉大なる教育者を記念する第一の心掛けは、此の偉人の前に、われ等自身を反省することではなければならぬ。此の自己反省なしには、此の日はわれ等に、何の眞意義をも齎らさないものである。

しかば、此の教育の權化の前に、われ等は如何なる自己を反省すべきか。ペスタロッチーは教育の學者ではない。故に、われ等の學問を反省するは此の日の仕事ではない。ペスタロッチーは教育事業の

所謂成功者でもなかつた。故に、われ等の事業を反省するのも、必ずしも此の日の業ではない。ペスタロツチーの前には、ペスタロツチーの眞乎の面目に於て、自己を反省しなければならぬ。その眞乎の面目とは、ペスタロツチーにありし、純眞なる教育精神そのものである。而して、ペスタロツチーの教育精神とは、彼の有名なる墓碑銘の言葉にある通り、凡、べて他の爲にし、何物も自己の爲にせざりし、その純眞なる人格そのものである。此の人格が兒童のために注がれたもの、それが、ペスタロツチーの教育精神であつたのである。それが更に凝つて、ノイホーフの貧兒教育となり、スタンツの孤兒保護となり、ブルグドルフとミュンヘンゼーの國民學校となり、最後にイヴェルトンの學舎となつたのである。而して、此の教育精神こそ、ペスタロツチーの前に、われ等を最深く反省三思せしむるものである。

ペスタロツチーは、所謂幼稚園教育に従事した人ではない。しかし、此の教育精神の所有者をして、今若し來りて、われ等の幼稚園にあらしめば如何。幼兒教育者として、あなたの位置に代らしめば如何。彼れは、如何なる心を以て幼兒達の間に居り、如何なる態度を以て幼兒達に接し、如何なる實際を以て幼兒達を世話するであらうか。小さきわれ等の反省は、胸を責めて止まるところを知らないのである。

私は嘗て、スタンツにペスタロツチーの遺跡を訪ねて、あの建物の壁に倚りながら、當時の光景を、

まぎ／＼と思ひ惚んだことがある。こゝで、ペスタロッチーは、貧窮と粗野との孤兒達を集めて、その間に共に生活したのである。それは、ペスタロッチーの意味に於て、素より教育であつた。しかも私の目の前に見えた實景は、ペスタロッチーが、身を以てする、孤兒達の實際の世話であつた。子ども達の着物と食物と睡眠と、それに伴ふ煩瑣なる、うるさい雑事の直接實際の世話であつた。すなはち、愛護であつた。保育であつた。而して、なんといふ、親身な世話に、己が身も心も疲れを知らなかつたことであらう。教育。しかし、ペスタロッチーにとつては、それは、抽象的な、方法的な教師らしく立つて教ふる仕事ではなかつたのである。兒童愛。しかし、ペスタロッチーの兒童愛は、きれいな手を、子ども達の肩に置いて、長閑な笑顔に酔ふ、上品な仕事ではなかつたのである。われ／＼が、またしても、その高き理想と、深き思想家に於てのみ仰がうとする大教育家ペスタロッチーは、徹宵、子ども達の寢床の世話までした眞に眞に實際的兒童愛護者であつたのである。

そのペスタロッチーをして、今若し、われ等の幼稚園にあらしめば、——反省すべきは、われ等の、幼兒に對する親身の世話の足りなさであるまいか。